

1 学校経営方針

学校教育目標

- 《安心》・・・子どもたちが安心して学校生活を送ることで、全ての子どもたちがその可能性を最大限引き出せるよう子ども理解に基づいた適切な集団作りに努める。
- 《信頼》・・・「子どもたちは地域で育てる」をスローガンに子どもの活躍や課題はもちろんのこと、日常生活についても積極的に情報発信するとともに、地域人材の活用を図ることで地域との垣根を取り除き、地域から信頼される学校をめざす。
- 《笑顔》・・・子ども同士、子どもと先生、先生同士、さらには保護者も交えたつながりを深めることにより、笑顔がいっぱいの学校づくりをめざす。

基本方針

◎学校教育目標に基づいためざす学校像を達成するため、以下のことに留意して教育活動を進めていく。

※様々な教育活動（授業や学校行事など）において、常に活動の目的を明確にしつつ、その目的の達成状況についての振り返りを大事にする。

※チーム田原の構築をめざすため、学年主任や部長が中心となりその業務の遂行及び進捗管理に努める。各担当は自分の役割を認識し、その業務を責任もって遂行するとともに同じ学年や部を一つのチームととらえお互いにフォローし合うことを大切にする。

(1) 確かな学力と進路指導の充実

- ・自ら課題を見つけ主体的に取り組むための基礎学力の定着を図る。
- ・GIGA スクール構想に基づき配布されたタブレット PC を十分活用し、個別最適化された学びの充実を図る。
- ・個別最適化された学びが孤立した学びにならないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、子ども同士や他の人との協働的な学びについて調査・研究を深め、実践を進めていく。
- ・小学校からの系統性のあるキャリア教育の充実を図り、子ども一人ひとりが夢をもって自分に合った進路選択ができるような進路指導に努める。

(2) 豊かな心の育成と温かい人間関係作り

- ・人間関係作りの第一歩として挨拶の推進に取り組む。（つながり）
- ・様々な出会いを大切にし、様々な価値観や考え方のあることを知ることで、他の人への思いや入りの心の醸成を図る。
- ・道徳教育や人権教育の理念を大切にし、子ども自らがこれからの生き方について、しっかりと考えることができるよう取り組みを進めていく。

(様式)

(3) 生徒指導の充実

- ・生徒指導は子ども理解からとの考えのもと、日頃からの声掛けや観察を大切にし、問題行動等の適切な未然防止・早期対応に努める。
- ・子ども理解に向け、支援教育について研鑽を積み、これまでの常識にとらわれない理解に努める。
- ・適切な集団作りは、適切な子ども理解があつてこそできるのであつて、教える側の理想とする集団作りは時により子どもの成長をとめてしまうこともあることに留意する。
- ・生徒会活動や学校行事への積極的な参加を進め、リーダーの育成を図るとともに自主・奉仕・協調の精神を育てる。

(4) 健康管理・安全教育・食育の推進

- ・自らの体力を知り、生涯にわたって運動に親しみ、自ら健康を管理し、改善していく資質や能力を育成する。
- ・安全の大切さを認識させるとともに、自他の生命を尊重し、自ら進んで安全の保持に努める態度を養う。
- ・登下校時や学校生活、自然災害等における危機管理体制を確立し、安心・安全な学校体制の充実を図る。
- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。

(5) 学校・地域環境の整備

- ・美化意識の高揚と豊かな情操・奉仕の心をはぐくむ。
- ・施設設備や自然環境に対する愛護の精神を高め、公共心をはぐくむ。
- ・教育の場としての施設・設備の整備に努め、学習に適した環境づくりを進める。
- ・自分たちの生活する地域の環境に目を向け、素晴らしい環境を守り、育てる態度を養う。

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす子ども像

キャッチフレーズ《はなそう、つながろう、やってみよう》
こども園、小学校、中学校とで連携して各学校の卒業時のめざす子ども像を、昨年度学校運営協議会でコミュニティ・スクールとしてのめざす子ども像とした。

《中学校》
「はなそう」：大人にも子どもにも本音でしゃべれる子
※自分の思いを相手の気持ちを尊重しつつ工夫して伝えられるように
「つながろう」：誰とでも幅広く交友関係を持てる子
※決まった相手だけでなく多くのつながりを持ち、結果全体としてまとまることができるように
「やってみよう」：失敗を恐れず自分で考えて行動できる子
※結果に左右されず自分の興味関心に基づいて様々なことにチャレンジできるように

(様式)

★めざす学校像	<ul style="list-style-type: none">• 人権、個性が尊重され、一人ひとりが生き生きと活動できる学校• 子どもたちが楽しく学び、確かな学力が身に付く学校• 美しく学習環境が整った学校• 地域に開かれた学校（コミュニティ・スクール）
★めざす教師像	<ul style="list-style-type: none">• 社会の情勢について注視し、生徒や学校における課題を見つけることができる教職員• 課題を明確に把握し、常に情熱と使命感を持ち、チームを意識した職務遂行に当たる教職員• 豊かな人間性と社会性を持ち、互いに協力し、温かみあふれる教職員• 危機管理意識の高い教職員

3 学校の現状（よさと課題）

（１）子どもたちの実態

（良い面）

学びたいという気持ちが強く、授業にも前向きに取り組む生徒が多い。

授業態度もよく、ペア学習やグループ学習にも積極的に参加できる。

昨年度の取組みから様々な学校行事や学年行事において主体的に取り組む参加しようとする姿が見られる。

（課題）

学習面では、家庭学習で計画を立てて、自分一人で勉強することが苦手。

また、全てにおいて自分のことをきちんとする力のある生徒は多いが、全体としてはグループの中でリーダーとなって、人を仕切る力が弱い。

（２）子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

家庭環境的にはとても落ち着いているが、学力については格差が大きく、中間層よりやや下の層が多くなってきた。

教育熱心な保護者が多いが、意外と親子での親身な話し合いがなされず、過度な期待のプレッシャーに負けてしまう生徒もいる。

②地域

一小一中で、９年間を見通した取組みができる反面、トラブル等で崩れた人間関係の修復は、狭い地域の中で困難なことも多い。

③組織（教職員、PTA、保護者）

（教職員）

人数が少ないため、学年を超えてチームで連携をすることができる。授業力改善に向けての取組みは、とても進んできた。

ここ数年、教員の入れ替えが進み、新しい考えの提案もあり、今後、学校経営に変化がみられるように思う。新しい先進的な取組みに触れることで更なる飛躍をめざしたい。

（PTA、保護者）

教育熱心な家庭が多いため、教育活動に寄せる関心度は高い。

保護者の大部分は、学校の頑張りはしっかりと評価し、協力体制も安定している。

PTA活動はとても協力的で、学校や地域の行事にも積極的に参加する人が多い。しかしながら、全体的にはコロナ禍により２年間活動がほとんどなくなったのを機に学校の教職員と顔を合わせた活動が減り、少しつながりが遠くなった感がある。

(様式)

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
①SAMRモデルに基づいた第3段階の授業展開を本校における授業改善の目標に置き、そのための取組を進めていく。 ②生徒会活動に加え、 <u>授業</u> においても取組みをすすめ、田原中校区のめざす子ども像の実現を図る。 ③ <u>支援教育</u> の理念を大事にし、 <u>子ども理解</u> に基づいた学習支援及び生徒指導を進める。 ④ <u>キャリア教育</u> の視点で学校の教育活動を再構築することで、自己有用感の醸成を図る。		学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価 (◎) 達成、(○) 改善 (△) 改善されず
①学習に関する生徒アンケート項目「学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え取り組んでいたと思いますか。」の肯定的回答	現状 79% 目標 90% →7月：94% →11月：94%	1月 90%	(◎) 年間を通じてICT×協働学習を念頭に、教職員向け研修会を3回、全学級の公開授業の実施、先進氏の取組みの視察などに取組むことで授業改善が進みグループ学習が定着してきた。
①学習に関する教職員アンケート項目「タブレットPCを教具以上に活用した。」の肯定的回答	現状 55% 目標 90% →7月：60% →11月：58%	1月 61%	(○) 昨年度末現状よりは改善されたが、目標までには至らなかった。それは、タブレットPCの活用内容の基準レベルが上がったことに起因するものと考ええる。次年度はそのことも考慮しつつよりレベルの高い活用を進めていきたいと考える。
②-1 学習に関する生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」の最肯定的回答 ②-2 自己診断生徒アンケート項目「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の最肯定的回答	②-1 現状 36% 目標 50% →7月：42% →11月：39% ②-2 現状 61% 目標 80% →7月：64% →11月：60%	②-1 1月 40% ②-2 1月 59%	②-1 (○) 昨年度よりは改善されたが目標までには至らなかった。なお、肯定的評価は78%でほぼ8割だった。今年度はあいさつ運動をはじめ様々な地域行事にボランティアを募集しつつ取組を進めた。また、学級・学年・学校行事でも生徒の主体性を重視した活動に取り組んだ。今後も活動の場を捻出しつつ取組を進めていきたい。 ②-2 (△) 昨年より改善することはできなかった。肯定的評価は91%であった。校則の見直しなど生徒の意見を重視し今後も教育活動を進めていきたい。
③-1 学習に関する生徒アンケート項目「学校に行くのは楽しい」の最肯定的回答 ③-2 学習に関する教職員アンケート項目「支援教育の視点から指導上の工夫を行いましたか。」の最肯定的回答	③-1 現状 52% 目標 70% →7月：50% →11月：47% ③-2 現状 32% 目標 50%	③-1 1月 41% ③-2 1月 52%	③-1 (△) 昨年より改善することはできなかった。肯定的評価は75%であった。支援教育の視点から子ども理解に基づいて生徒指導に取り組んできたが、様々な課題から学校としての対応の難しさも新たに確認することができた。地域や関係機関との連携した対応も視野に入れつつ子どもが「学校は楽しい」と感じ

(様式)

	→7月：60% →11月：47%		ることができる学校づくりをめざしていく。 ③-2(◎) 目標値を達成することができたが、上記の結果から分かるように生徒の実感までには至っていない。次年度は具体的な活動を検討したいと考える。
④-1 学習に関する生徒アンケート項目「将来の夢や目標を持っている。」の最肯定的回答 ④-2 学習に関する生徒アンケート項目「人の役に立つ人間になりたいと思う。」の最肯定的回答	④-1 現状 45% 目標 70% →7月：41% →11月：43% ④-2 現状 77% 目標 75% →7月：80% →11月：77%	④-1 1月 47% ④-2 1月 71%	④-1(○) 昨年度よりは改善されたが目標までには至らなかった。なお、肯定的評価は78%でほぼ8割だった。 ④-2(△) 昨年より改善することはできなかった。肯定的評価は94%であった。 キャリア教育の推進において職業聞き取り体験学習などに取り組んだが、より系統性のある教育活動へとステージアップしなければならないと感じる。そのため、こ小中連携会議を柱に、今ある具体的な取組みを再構築、可視化させることが必要であると考え。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)		
チーム田原として、こ小中連携を軸としたコミュニティ・スクールを核とした学校組織の運営に取り組む。 それぞれ得意・不得意があり、得意なことはチーム田原のために活用し、不得意なことはみんなでカバーしていけるような環境づくりの構築と、その業務が膠着しないシステムの構築を図る。	学習に関するアンケート 学校教育自己診断アンケート		
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
学習に関する教職員アンケート項目「学校の状況や課題に対し、全教職員で組織的に取り組んでいますか。」の最肯定的回答	現状 87% 目標 95% →7月：40% →11月：42%	1月 43%	(△) 昨年より改善することはできなかった。肯定的評価は91%であった。こ小中連携の取組みや生徒が地域に出て活動する取組みを進めることができたが、学校全体への広まりがやや薄かったように感じる。次年度は今年度の取組みを継続しつつ学校全体が実感できるように工夫をしていきたい。
自己診断教職員アンケート項目「日々の教育活動における課題や悩みについて気軽に相談し合える職場の人間関係ができている。」の最肯定的回答	現状 14% 目標 50% →7月：40% →11月：47%	1月 48%	(○) 昨年度よりは改善されたが目標までには至らなかった。なお、肯定的評価は87%だった。今年度は教員の欠員状態の中、教員一人ひとりの業務が重くなり負担感があった。しかしながら、そのような状況だからこそ逆に団結できた部分もあるように感じる。今年度の経験を無駄にせず次年度に生かしていく。

(様式)

目標設定区分3 『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
様々な教育活動における目的を常に意識した取り組みを推進し、その定着を図る。 あわせて、先進的な教育実践に触れることで教員としてのスキルアップを図る。		学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
学校自己診断アンケートの項目「本校は教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」の最肯定的評価	現状 18% 目標 50%	35.0%	(○) 昨年度よりは改善されたが目標までには至らなかった。なお、肯定的評価は90%だった。年間総括の資料については、その教育活動の目的に照らし合わせた振り返りによる総括の視点が定着してきたが、まだまだ目的よりも取組み手順の不都合さなどの意見が多くある。今後も目的の達成度の視点を当てた振り返りをするよう強い発信を継続していく。
学校自己診断アンケートの項目「職員会議をはじめ各種の会議が、情報交換や課題検討の場として有効に機能している。」の最肯定的評価	現状 14% 目標 50%	35.0%	(○) 昨年度よりは改善されたが目標までには至らなかった。なお、肯定的評価は75%だった。ただ、会議の開始時間や終了時間は意識して守ることができた。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
コミュニティ・スクールとしての定着を図る。 PTA 活動や地域教育協議会の活動を通して顔のわかる関係作りを進めることで地域の学校としてのイメージの定着を進める。		具体的な活動内容の決定 地域の様々な団体との交流事業の実施 学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
・活動の具体的な内容の決定 ・具体的活動への参加 ・学校自己診断アンケートの項目「学校は保護者や地域の人たちと話す機会を設けていますか。」の最肯定的評価	・計画書の作成 →済 ・参加実績 8割 ・50%	・作成済み ・8割以上参加 ・18%	(○) 計画書の作成や参加実績は達成できた。アンケート項目については達成できなかった。ただ、肯定的評価は83%であり、もう少し印象に残る活動やその情報発信に課題があったと考える。次年度は、よりインパクトのある情報発信に努めたい。

5 総合評価と次年度に向けて

まず初めに達成規準を再肯定的評価に絞ったが故に、達成できていない項目が多くなってしまった。これは、それぞれの活動がほぼ肯定されているが、積極的に進めていこうとするまでの姿勢が出現していないものと考えられる。次年度はより積極的に働きかけを行っていく必要がある。以下に目標設定区分ごとに述べる。

○目標設定区分1（学校経営）

(様式)

- ①10月に全学級を公開授業とした授業研究を行うとともに、先進市の取組みに触れる視察及びその報告を職員会議のなかで行い、タブレット等を単に使うことからそれを協働学習に活用していく意識の醸成が図れた。
- ②学校の行事だけでなく授業においても様々な場面において子どもが主体的に活動する場面が多くなった。
- ③生徒指導において子どもの背景を十分に考慮しつつ対応する体制が定着した。あわせて、校則の見直しを進めてきた。
- ④キャリア教育の推進に向け、職業聞き取り体験学習を行うことができた。

【今後の課題】

- ・キャリア教育の視点において教育活動の再構築をより進めていく必要がある。

○目標設定区分2（学校組織の運営）

- ・小中連携の取組みは年間計画の基づいて確実に実行でき、これまでの繋がりのさらなる強化を図ることができた。
- ・地域の専門学校における車いす体験学習や田原地区まちづくりワークショップへの生徒の参加、美術部による郵便局の壁画作成に加え、ギター部の地域行事への積極的な参加など地域に対して学校のオープンが予想以上に学校として進んだ。
- ・教職員一人ひとりがそれぞれの得意不得意を理解し、互いに補いながら教育活動を進めていく様子が見られ、チームを意識した姿勢が概ね定着してきた。

【今後の課題】

- ・今年度は欠員のため、その対応に苦慮したが、その分、教職員の団結は進んだように感じる。次年度は、そのことも考慮しつつ組織体制を検討する必要がある。

○目標設定区分3（人の管理・育成）

- ①すべての教育活動において、その目的に基づいた年間総括をする形が定着した。その上で、次年度の取組みに対しての提案や申し送りをするという視点ができてきた。
 - ②先進的な教育実践に触れるための視察について、市内中学校視察も含め複数校に出向くことができ、その報告を職員会議で行うことができた。
- ・将来の管理職候補を意識した声かけやOJTによりリーダー育成を図ることができた。

【今後の課題】

次年度は、年度当初から計画的に年間を通した教職員のスキルアップのための研修会への参加や他校への視察などを進めていきたい。

○目標設定区分4（地域連携と渉外）

阪奈中央リハビリ専門学校における車いす体験学習や田原地区まちづくりワークショップへの生徒の参加、美術部による郵便局の壁画作成に加え、ギター部の地域行事への積極的な参加など、生徒が地域に出ていくことにより開かれた学校づくりが進んだ。

【学校運営協議会評価】令和6年3月1日（金）実施

○高い目標を立てて取り組んだ事は、学校をよくして行こうとする意識の表れであり評価する。

○欠員状況の中、学校としてよく頑張ったと思う。

など、おおむね好意的な発言が多く了承された。

※次年度は更なる授業改善を図るとともに、地域に開かれた学校づくりにあわせて取り組んでいきたい。また、地域人材の活用や教職員の人材育成なども、その取組みにリンクさせながら取組を進めていきたい。